



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC  
(奈良県保健環境研究センター内)



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎
- 奈良県結核患者情報（平成24年10月） New
- 気になる話題：感染性胃腸炎が全県域で多発しています New



(調査週) 平成 24 年 第 47 週 11 月 19 日 (月) ~ 11 月 25 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	13.06	↑	↑	↑	↑
2	水痘	0.86	↑	→~↑	→~↑	↑↑
3	RSウイルス感染症	0.74	→	→~↓	→~↑	→~↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.66	→~↑	→~↑	→	↓
5	手足口病	0.29	→~↑	→~↑	→	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は243例で、前週報告の248例とほぼ横ばい。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③RSウイルス感染症＝水痘、④手足口病の順。感染性胃腸炎の報告数（185例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（11例）も、ほぼ横ばい。水痘の報告数（11例）も、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（9例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（15例）は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、第43週に1例報告されて以降、第47週まで奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。眼科定点からの報告は、奈良市HCより急性出血性結膜炎；1例と流行性角結膜

炎；2例、郡山HC管内より流行性角結膜炎；2例があった。また、基幹定点からの報告は、郡山HC管内よりマイコプラズマ肺炎；1例があった。

(村井 記)

**県中部地区概況** 報告数は、239例から261例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、142例、207例から209例と増加し、水痘は、14例、13例から15例と増加傾向である。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

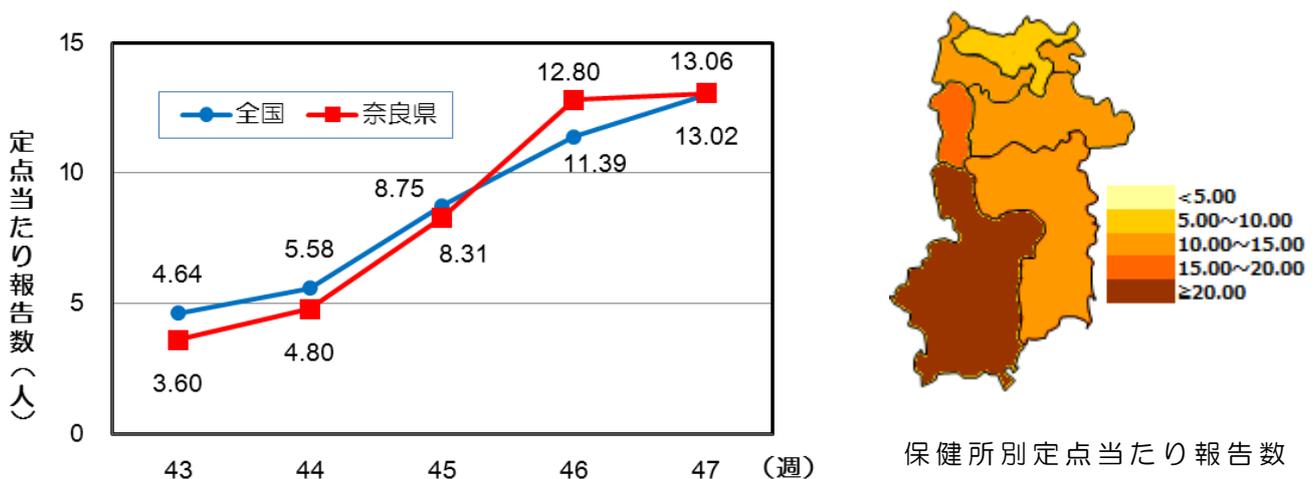
(高木 記)

**県南部地区概況** 報告数(第46週→第47週)は68例→73例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(61例→63例)、②水痘(2例→4例)、③突発性発疹(1例→2例)、④RSウイルス感染症(3例→1例)、④手足口病(0例→1例)、④伝染性紅斑(0例→1例)、④マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(0例→1例)であった。

(柳生 記)

### 《流行感染症情報：感染性胃腸炎》

第47週の奈良県全体における定点あたり報告数は13.06(報告数457)と、前週までより伸びは鈍化しましたが、全国値は13.02であり、奈良県はほぼ同じ数値となっています。



感染症情報センターホームページアドレス

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)

## 【奈良県結核患者情報】

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報を提供しています。  
今回は 10 月の新規届出状況をお知らせします。

表. 結核届出数 (平成24年1月～)

市町村	10月	総計	
北和	奈良市	11	90
	大和郡山市		17
	天理市		25
	生駒市	3	25
	山添村		
	平群町	1	9
	三郷町	1	5
	斑鳩町		9
	安堵町	1	2
中和	大和高田市	3	19
	御所市	1	7
	香芝市		17
	葛城市	2	8
	上牧町		1
	王寺町	3	6
	広陵町	1	5
	河合町	1	6
	橿原市	4	45
	桜井市		9
	宇陀市	2	6
	川西町	1	2
	三宅町		
	田原本町		10
	曽爾村		
	御杖村		
	高取町	1	2
明日香村		3	
南和	吉野町	1	5
	大淀町		6
	下市町		3
	黒滝村		
	天川村		
	下北山村		
	上北山村		
	川上村		1
	東吉野村		
	五條市	3	12
	西吉野村		
野迫川村			
十津川村		1	
合計	40	356	

(11月27日現在)

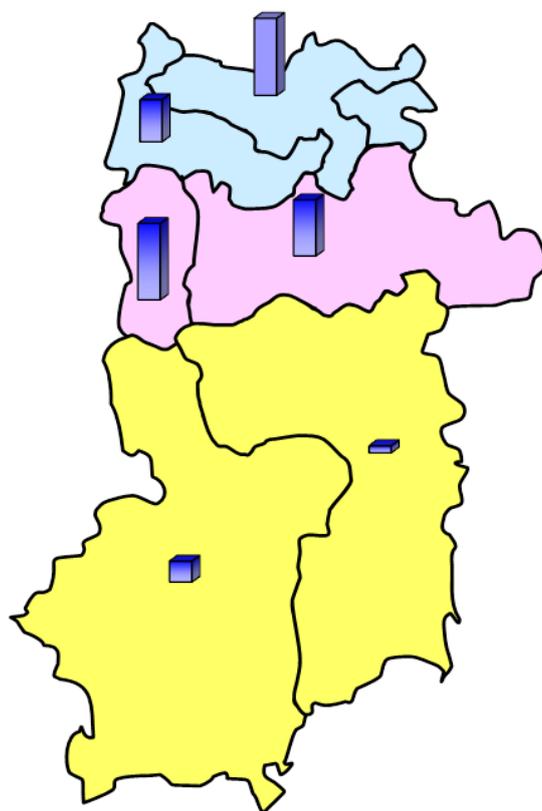


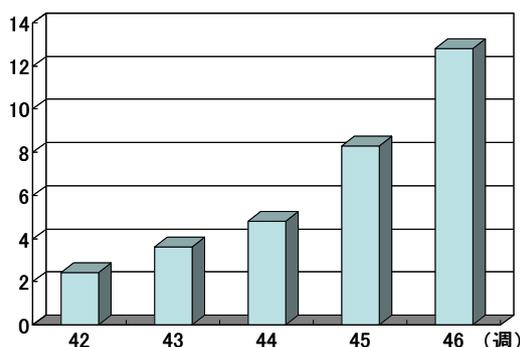
図. 保健所別届出数 (平成24年10月受理分)

(感染症情報センター 記)

# 感染性胃腸炎が全県域で多発しています

ノロウイルスを主体とする感染性胃腸炎が全県域で多発しています。患者発生状況等を紹介し、消毒法についてお話をいたします。

## 1 県内の定点当たりの患者数および地域の経時的変化



表は 42 週 (10/15-21) から 46 週 (11/12-18) までの 1 ヶ月間の、県内の定点当たりの患者発生数を示します。グラフからは、44 週 (10/29-11/4) : 4.80 人から 45 週 (11/5-11) : 8.31 人で倍増、その後 45 週から 46 週 : 12.80 人で 1.5 倍増と確実に患者増がみとれます。なお、流行発生警報開始基準値は 20 人以上です。

発生地域の患者数の推移は、42 週の時点では中部、南部に多く、その後 45 週には全県に広がりがみられました。

## 2 近府県および全国の患者発生状況

近府県の状況は、本県とほぼ同程度です。また、全国をみますと九州 (7 県の平均 17.59 人)、近畿 (2 府 4 県の平均 14.28 人) で多く発生し、北海道 (4.06 人)、東北地方 (6 県の平均 6.73 人) ではむしろ患者数は低い傾向です。

46 週 (11/12-18) 時の患者発生状況 (人)

滋賀県	11.41	奈良県	12.80
京都府	12.24	和歌山県	11.71
大阪府	19.21	兵庫県	18.36

## 消毒法について

- 消毒用アルコールでは除去できません。
- 日頃から、食事前やトイレの後には、石鹸を使って**しっかり手を洗ってください**。
- ウイルスは環境中でも安定なので汚染された水や食物を介しても感染します。下痢便、嘔吐物の洗い流した場所の消毒には、市販の**塩素系漂白剤** (通常は 5% 程度 : キッチンハイターなどの次亜塩素酸ナトリウム) を水道水で 50 倍程度に薄めて 10 分程度浸すと有効です。例えば、500ml ペットボトルにキャップ (約 5ml) 1 杯のキッチンハイターを入れると 100 倍です (500ppm)。なので、キャップ 2 杯を入れれば 50 倍です。\* (ミルトンは次亜塩素酸ナトリウム濃度が 1%)
- 処理には必ず手袋、マスクを着用** することです。また、調理器具、衣類、タオルなどは熱湯 (85 度以上) で 1 分以上の加熱が有効です。

### ノロウイルスに関する Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

(感染症情報センター 記)